

# 応用薬物療法学

[講義] 第4学年 前期 必修 1単位

《担当者名》教授 / 泉 剛

教授 / 柳川 芳毅

准教授 / 水野 夏実 准教授 / 鹿内 浩樹

## 【概要】

応用薬物療法学では、基礎的な薬物療法に加え、遺伝子治療、移植医療、支持療法、安全性に配慮した医薬品の使用など応用的な薬物療法について学修し、薬剤師としての実践力を身に着ける。

## 【学修目標】

がん治療、遺伝子治療などの先進医療について、3年生までに学修した薬物療法学から一歩進んだ内容を理解し、関連する薬物療法について説明できる。

医薬品の代表的な有害作用について理解し、説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	感染症及び悪性腫瘍（がん）の薬物療法	<p>抗菌薬の抗菌スペクトルと薬物療法について説明できる。</p> <p>がん薬物療法における代表的なレジメンについて説明できる。</p> <p>関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(7)-1-1, E2-(7)-8-4</p>	柳川 芳毅
2	組換え体医薬品・遺伝子治療・移植医療	<p>組換え体医薬品・遺伝子治療・移植医療について説明できる。</p> <p>関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(8)-1~3</p>	柳川 芳毅
3	皮膚疾患	<p>免疫異常・感染症・外力による皮膚疾患を原因別に分類し、適切な薬物療法を選択できる。</p> <p>関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(6)-3</p>	柳川 芳毅
4	生殖医療	<p>生殖器系疾患（前立腺肥大、子宮内膜症、子宮筋腫など）について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。</p> <p>妊娠・分娩・避妊について、関連薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。</p> <p>異常妊娠、異常分娩、不妊症について説明できる。</p> <p>性腺の内分泌疾患について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。</p> <p>関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -6~8</p>	水野 夏実
5	骨・カルシウム代謝疾患	<p>骨粗鬆症について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。</p> <p>カルシウム代謝異常を伴う疾患について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。</p> <p>変形性関節症について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。</p> <p>関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(2)- 2~4</p>	水野 夏実
6	医薬品安全総論 神経・筋毒性 感覚器毒性 皮膚毒性 免疫毒性	<p>医薬品の副作用について概説できる。</p> <p>医薬品の神経毒性、筋毒性について説明できる。</p> <p>医薬品の視覚・聴覚・味覚・嗅覚毒性について説明できる。</p> <p>医薬品の免疫毒性、皮膚毒性について説明できる。</p>	泉 剛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E1-(4)-1, 2, 3, 4	
7	消化器毒性 腎毒性 呼吸器毒性	医薬品の消化管および肝胆膵毒性と腎毒性について説明できる。 医薬品の呼吸器毒性について説明できる。  関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E1-(4)-1, 2, 3, 4	鹿内 浩樹
8	血液毒性 心・循環器系毒性 内分泌毒性 発生毒性 発がん性 トキシドローム 解毒	医薬品の血液毒性について説明できる。 医薬品の心臓並びに循環系器官に対する毒性について説明できる。 医薬品の発生毒性と発がん性、内分泌毒性について説明できる。 医薬品のトキシドロームと中毒に対する解毒について説明できる。  関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E1-(4)-1, 2, 3, 4	鹿内 浩樹

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（筆記試験）（100%）で可否の判定を行う。

【教科書】

- 「コンパス薬物治療学 改定第2版」原明義、小山進（南江堂）
- 「パートナー薬理学 改定第4版」栗原順一、田中芳夫、坂本謙司（南江堂）
- 「図解 薬害・副作用学」改訂第3版 川西正祐・小野秀樹・賀川義之編 南山堂

【参考書】

- 「NEW医薬品の安全性学 第2版」吉田武美・竹内幸一編 廣川書店
- 「臨床薬理学 第4版」小林 真一 / 長谷川 純一 / 藤村 昭夫 / 渡邊 裕司ほか 医学書院
- 「医薬品トキシコロジー 改訂第4版」佐藤哲男/飯家公夫/北田光一編 南江堂

【学修の準備】

予習としては、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解しておくこと（50分）。  
復習は、講義スライド並びに教科書、参考図書を活用して学修を深めること（50分）。  
確認のため、講義時間内に小テストや課題を課すことがある。結果の解説は、講義時間内に行うか、webを活用して行う。

【関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標】

- E1 薬の作用と体の変化  
(4) 医薬品の安全性
1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。
  2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。
  3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。  
血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害
  4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

( 2026年度・薬学部 )

泉 剛(医師)、柳川 芳毅 (製薬企業において創薬研究に従事)、水野 夏実 (薬剤師)、鹿内 浩樹(薬剤師)

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関での医師、薬剤師としての経験や製薬企業において創薬に携わった実務経験を活かし、医療場面で遭遇する可能性の高い臨床診断に関する知識を講義することで実践的な教育を行う。